

第 32 回（公社）日本木材保存協会年次大会 公開シンポジウム

主 催：公益社団法人日本木材保存協会

後 援（予定）：林野庁，一般社団法人日本木材学会，公益社団法人日本木材加工技術協会

日 時：平成 28 年 5 月 25 日（水）14:20～16:45

会 場：メルパルク東京 5 階「瑞雲」

東京都港区芝公園 2-5-20 電話 03-3433-7212

内 容：公共建築物や住宅への木材利用が進むなか、耐久性、安全性、居住性、省エネ性などを向上させるため、高度な技術が求められています。木造建築物の耐久性向上を図るためには、製材、集成材、合板、直行集成板（CLT）などの建築部材に対して、木材保存剤による適切な処理が必要となります。本公開シンポジウムは 32 回目を迎えた年次大会の中で開催され、「木材保存剤の変遷と分析の最前線」と題して、講演会と討論会を開催します。

<テーマ>

「木材保存剤の変遷と分析の最前線」

コーディネータ：山本幸一（（研）森林総合研究所）

<講 演>

1. 土居修一（筑波大元教授）

「木材保存剤の変遷と今後の有り方」

2. 桃原郁夫（（研）森林総合研究所）

「木材保存剤の長期安定性評価に向けた取組み」

3. 宮内輝久（（地独）北海道立総合研究機構林産試験場）

「木材保存剤の定量分析方法の効率化・高精度化に向けた取組み」

<パネルディスカッション>

司会：山本幸一

パネリスト：土居修一、桃原郁夫、宮内輝久